Fact Sheet

The New Color of Money
Safer. Smarter. More Secure.

www.moneyfactory.com/newmoney

偽造抑止

連邦準備制度および財務省は、偽造に対する米国通貨の信頼性を守るために貨幣デザインの改善と積極的な法執行に引き続き取り組んでいます。

- 通貨偽造の発生は、過去 100 年以上にわたり低く保たれてきました。

- 偽造犯によるテクノロジー利用がしだいに増加しているにもかかわらず、関係当局による偽造抑止策の推進によって、偽造発生率は低く抑えられてきました。最近の統計では、世界市場に出回っている偽の 50 ドル紙幣は、本物の 50 ドル紙幣 25,000 枚につき 1 枚未満と推定されています。[1]

- 1996 年に初めて導入された最新の紙幣デザインには、偽造をより困難にし、金融機関や現金取扱い業務に携わる方だけでなく、一般の方々も簡単に判別ができる安全対策のための特徴が採用されています。

  - 利用しやすい安全対策のための特徴は、一般の方々の判別にも役立ちます。

  √ **透かし**：光にかざすと、肖像画とよく似たかすかな像が見えます。この透かしは紙自体に入っているもので、紙幣の両面から確認できます。
  √ **偽造防止糸**：これも光にかざすと、両面から見えます。この縦方向に走る合成繊維の偽造防止糸は、紙に埋め込まれたもので、小さな文字で額面金額が綴られています。
  √ **カラーシフティング・インク**：紙幣の表面の右下隅にある額面金額を表す数字は、紙幣を傾けると色が変わります。新しい貨幣では、色の変化がさらに大きくなっています。色は赤褐色から緑色に変化し、一般の方々による判別もしやすくなっています。

- 安全対策のための特徴は模倣が非常に困難なため、偽造犯達は、現金取扱い者や一般大衆が紙幣の確認をしないことを見込んで、あえて模倣を試みないこともよくあります。
-

[1] 連邦準備制度

偽造に関して詳しくは、米国財務省検察局の
広報部（202）406-5708 までお問合せください。

- 米国財務省検察局は、偽造活動の抑制にあたり、世界中の銀行や法執行当局と協力しています。

- 積極的な法の執行により、関係当局は大部分の偽造米国紙幣を、市場に出回る前に押収しています。

  - 2003 年度には、米国財務省検察局と国際関係当局は、6300 万ドル分の偽札を、市場に出回る前に押収しました。これとは別に、市場に出回っていた 3800 万ドル分の偽造米国貨幣をも押収し、世界中の市場から撤去しました。こうしたケースでは、偽札を手にした、罪なき被害者の方々が経済的損失を被りました。[2]

  - 2003 年、米国財務省検察局は、米国内での紙幣偽造活動 3,640 件を検挙しました。偽造の罪で起訴されたものうち約 99 パーセントが有罪判決を受けています。[3]

  - 2003 年度に米国市場に出回った偽造紙幣の約 42%が米国以外の場所で製造されたもので、2002 年にはこの値は約 50%でした。[4]

- 広報活動、法の執行、1990 年代後期に実施された貨幣の変更などがどれも効果を上げ、また一般大衆の意識が向上していることで、米国貨幣の偽造は低いレベルに抑えられてきました。

偽造犯は、デジタル化された偽造が簡単で安くなるにつれ、しだいにデジタル機器による方法に切り換えています。

- 従来は、高度な技術を要する旧来の印刷技術を利用した本格的な偽造が、組織的犯罪グループの手で行われていたのに対し、今日ではごく一般的なコンピュータを利用したケースが増えつつあります。

  - 1995 年、米国国内で見つかった偽札の 1 パーセント未満がデジタル機器によるものでした。それ以来、デジタル機器が一般公衆にも入手できるようになり、その結果、デジタル機器による偽札が占める割合が増大してきました。過去 7 年間において、その割合は約 40 パーセントに落ちついています。[5]

  - 2003 年、米国財務省検察局は紙幣の偽造に使われたパーソナルコンピュータなど、469 点のデジタル機器を押収しました。[6]

---

2 米国財務省検察局
3 米国財務省検察局
4 米国財務省検察局
5 米国財務省検察局
6 米国財務省検察局

- 米国国内では偽造のデジタル化がより普及しているのに対して、海外では旧来のオフセット印刷による紙幣の偽造がまだ一般的です。

常に偽造犯達の一歩先を行くために、米国は 7～10 年ごとに新デザインの導入を行います。

- 紙幣デザインの改良は継続的なものとなってきました。このシリーズで最初の新貨幣デザインの 20 ドル紙幣は、2003 年 10 月 9 日に発行されました。このシリーズは、2004 年遅くに発行される 50 ドル紙幣、その後の新しい 100 ドル紙幣へと続きます。10 ドルおよび 5 ドル紙幣の新デザインは検討中ですが、2 ドルおよび 1 ドル紙幣の新デザインは予定されていません。

新しい 50 ドル紙幣は、より安全で、より洗練され、そしてより安心です。つまり、偽造しにくく判別しやすい安全さ、テクノロジーマニアの偽造犯達の一歩先を行く洗練度、米国貨幣の信頼を守る安心が、さらに高められています。

- 新しい 50 ドル デザインでは、1990 年代に導入され、消費者や商業従事者の別なく簡単に判別できる安全対策のための 3 つの特徴である透かし、偽造防止糸、およびカラーシフティング・インクが、引き続き採用されています。

- 消費者の方が、紙幣が本物かどうかを見分けるために、色を使用するべきではありませんが、色が追加されたことで、紙幣の複雑さが増し、偽造しにくくなっています。

安全対策のための特徴は、一般の方々の理解によってより効果的なものとなります。認識を高めるために、米国政府は、世界中の方々に新しい 50 ドル紙幣の登場を知らせ、安全対策のための特徴を理解し、それを活用してもらう広報活動に取り組んでいます。50 ドル紙幣を最も頻繁に使用・取扱いすることになる一般には金融および小売部門で、特殊なところではギャンブル産業などで現金取扱いに携わる人などがその対象となります。

- 安全管理のための特徴の利用方法を知っておくことで、価値の全くない偽造紙幣を手にすることは避けられます。

- 最近の統計では、世界市場に出回っている偽の 50 ドル紙幣は、本物の 50 ドル紙幣 25,000 枚につき 1 枚未満と推定されていますが、万一、偽札を手にすることになった場合、せっかく稼いだお金を失うことになります。偽造紙幣を届けても、本物と換えてもらうことはできず、それと知った上で偽造紙幣を使用することは違法行為となります。

偽造に関して詳しくは、米国財務省検察局の
広報部（202）406-5708 までお問合せください。